

第2回美里町総合教育会議会議録

日 時 平成30年11月21日（水曜日）午後2時開議

場 所 美里町役場本庁舎3階会議室

会議構成員

町 長	相 澤 清 一
教育委員会教育長職務代理者	後 藤 眞 琴
教 育 委 員 会 委 員	成 澤 明 子
教 育 委 員 会 委 員	留 守 広 行
教 育 委 員 会 委 員	千 葉 菜穂美
教 育 委 員 会 教 育 長	大 友 義 孝

美里町総合教育会議事務局

総 務 課 長	佐々木 義 則
総務課秘書室課長補佐 兼総合調整係長兼広報広聴係長	齊 藤 眞

意見聴取者

教育次長兼教育総務課長	佐々木 信 幸
教育総務課学校教育 環境整備室長	佐 藤 功太郎

議事日程

第1 開 会

第2 挨 拶

第3 協議事項

(1) 中学校の再編について

- ・建設用地の適地選定結果
- ・今後のスケジュール

第4 その他

第5 閉 会

午後2時 開会

日程第1 開会

○総務課長（佐々木義則） 本日は御多忙のところ、御参集いただきましてまことにありがとうございます。
ございます。

定刻となりましたので、平成30年度第2回美里町総合教育会議を開催させていただきます。

日程第2 挨拶

○総務課長（佐々木義則） 初めに、相澤町長より御挨拶を申し上げます。

○町長（相澤清一） どうも皆様、こんにちは。

今日は、第2回美里町総合教育会議ということで、本当に公私ともに大変お忙しい中、大友教育長さん初め教育委員の皆様にご出席をいただきまして感謝を申し上げます。

また、先日、美里町小中学校PTA連合会教育行政懇談会がありました。本当に大変御苦労さまでございました。改めていろいろな課題があるのだとつくづく思った次第でございます。

また、今日は前段教育委員会があったということで、本当に教育委員の皆様には今までにない形で教育委員会が開催されております。本当に大変御苦労さまでございます。また心労も非常にあるのかなと、そういうような思いをいたしております。

今日は、中学校の再編についての協議でございますけれども、本当にこれまでいろいろな形で何回も何回も教育委員会を開催していただき、そして町民の皆様には説明をし、理解をいただいてここまで来たのかなと、大きな成果が得られたと思っております。まだまだ先は長い、また、山は高いのかなという思いはいたしております。しかし、これを成し遂げないことには本町の教育行政、いろいろな形でしっかりとできないということもございますので、未来ある子供たちのためにそしてこれからの美里町のまちづくりのためにも大変大切なことだと思っておりますので、本当に丁寧に説明することはもちろんのこと、ときにはしっかりと英断も下していかなければいけないと、そういう思いをいたしております。そのためにも、この総合教育会議の中で多くの議論をしながら方向性を定めていきたいと思っておりますので、今日はよろしくお願いを申し上げます。

本当に改めて教育委員の皆様のご御尽力に感謝を申し上げまして、挨拶にかえさせていただきます。どうもありがとうございます。

○総務課長（佐々木義則） 続きまして、大友教育長から御挨拶をお願いいたします。

○教育長（大友義孝） 皆さん、こんにちは。

午前中も教育委員の皆さんには協議に臨んでいただきまして、本当にありがとうございました。町長には、これまで教育委員会で協議してまいりました中学校の再編につきまして、これまで教育委員会、中学校の建設に関しまして約70回の委員会を開催してまいりました。その結果、教育的観点から見た目線でこのような形で教育委員会では協議が整ったということで、このたび総合教育会議を開催していただきまして、これから説明申し上げたいと思っております。本当にお忙しい中、総合教育会議を開催いただきまして、本当にありがとうございました。町長、先ほど御挨拶を頂戴いたしましたように、まだまだハードルが高い部分もあろうかと思いますが、これから一生懸命取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○総務課長（佐々木義則） ありがとうございます。

それでは初めに、本日の会議録署名委員の選出について、事務局からお諮りさせていただきたいと思ひます。

本日の会議における議事録の署名につきましては、後藤委員さんと千葉委員さんにお願ひしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○総務課長（佐々木義則） ありがとうございます。それでは、よろしくお願ひしたいと思います。

日程第3 協議事項

○総務課長（佐々木義則） それでは、早速3番の協議事項に入らせていただきたいと思います。

座って進めさせていただきます。

本日の協議事項につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第4項及び美里町総合教育会議設置規則第4条第2項の規定によりまして、平成30年11月15日付で教育委員会より依頼がありました中学校の再編についての事項について協議をお願いいたします。

協議に入る前に、皆さんにお諮りいたします。

中学校用地選定等の意思決定前に情報を公開することで公益に害するおそれがありますことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項及び美里町総合教育会議の公開及び傍聴に関する規定第2条の規定によりまして、この会議を非公開としたいと思います。

ので、賛同される皆様の、大変申しわけありませんが挙手により賛同をお願いしたいと思えます。よろしくお願ひします。

(賛同者挙手)

○総務課長(佐々木義則) ありがとうございます。

美里町総合教育会議の公開及び傍聴に関する規定第2条の規定によりまして、委員全員の賛同によりましてこの会議については非公開とさせていただきます。

それでは、早速中学校の再編につきまして、本日の資料に基づいて、教育委員会から御説明をお願いいたします。

○教育長(大友義孝) それでは、これまで教育委員会で協議してきた内容を、教育委員会事務局から説明させていただきたいと思えますので、お許しさせていただきたいと思えます。

○教育総務課学校教育環境整備室長(佐藤功太郎) 大変お疲れさまでございます。教育総務課佐藤でございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、まず資料の確認をさせていただきたいと思えます。

まず、表紙に第2回総合教育会議資料、中学校の再編についてというものです。今日の日付と教育委員会と入っている物が一つございます。それと、新中学校の建設適地選定に係る資料、これは国際航業から提供いただいている資料でございますけれども、A3判の物です。あとは表紙の差しかえをお願いしておったんですが、美里の教育関係計画というものです。その下にA3判の資料がついている物というところで、これらを使いまして御説明をさせていただきたいと思えます。

それでは、座って説明をさせていただきます。

まず、中学校の再編についてというA4判の資料から御説明をさせていただきます。

1枚めくっていただきまして、1ページ目でございますけれども、学校再編とまちづくりの関係性と学校教育の方向性についてということで整理したものでございます。

まず、現状といたしまして、全国的傾向ということで人口減少・都市部への人口集中により地域が衰退していっていると。あと、美里町の教育環境の変化ということで、児童数の減少、生徒数の減少ですね、学校施設の劣化というようなところがございます。こういうことを見ますと、将来を見据えて対策をとっていく必要があるというようなところでございまして、美里町の施設の現状といたしましては幼稚園が3園、小学校が6校、中学校が3校ということになってございます。教育委員会で美里町学校再編ビジョンを定めておりまして、その中では幼稚園については現状維持と。小学校につきましては6校を3校に再編、将来は1校再編も視野

に入れていると。中学校につきましては1校ということで3校を1校に再編ということにしてございます。

それで、総合計画の中で、総合計画で何を目標にするかというところでございますと、やはり人口減少を抑制して、人口を維持していくというところが大きいところなのかなということでございます。その中で、重点課題といたしまして、1つ目が教育環境の充実と人材育成という部分、2つ目が産業振興、3つ目が少子高齢化への対応、4つ目が子育て環境の整備と、こういう部分が総合計画の中で重点課題ということになってございまして、さまざまな政策を連動させてトータルで総合計画を実現していく。人口抑制、人口維持につなげていくところだと思います。その中で、キーワードとなってくるのが美里町に人を残す、あとは戻す、入れるというような視点があるのかなと。その中で、現在は価値感が多様化して、まとめづらい世の中となっています。私たちの町という意識が薄れつつありまして、美里町で育って、美里を思う気持ちを育成していくことがこの町の発展につながるというところでございます。そこで、基本方針といたしまして、美里町学校教育環境整備方針というものを、平成27年12月に策定しています。その中で、それぞれの地域のよさを引き継ぎ、故郷に誇りを持つ人間関係を育て、美里町で学べてよかった、将来美里町で頑張りたいという故郷を愛する子供たちの育成ということを謳っております。そんな中で、これは合併当時のビジョンにも載っておりますが、郷土を愛する美里人の育成ということで、これにつきましては幼稚園から、保育所も含めて小学校、中学校、各段階で教育プログラムをしっかりと実施していくべきではないかというところございまして、次のページですね、2ページ目になりますけれども、そのプログラムをお示ししているものでございます。基本方針といたしましては「美里町の将来を望み、共に支え合いながら主体的に生き、国際的な視野を持つ心豊かな人材の育成」と、こういうものを掲げてございまして、これに向けて、やはり一番基盤になるところは子供を産み育てたい環境というものがまず必要であると、そういう土台がある中で、各段階、幼稚園・保育所の段階、小学校の段階、中学校の段階という形でしっかりと目標に向けて育っていくという子供たちをしっかりと育成していくということになると思います。まずは、就学前につきましては基盤ということで、基礎的な運動能力なり思考力、そういうものを養っていくと、育んでいくというところで、小学校に入りましたら基礎ということで、自分が住む地域でしっかりと地域のことを学びながら、地域のことを愛する気持ち、誇りを持てるそういうところを育てていくと。地域密着型というんですかね。各地域密着型という形になるのかなと。さらに中学校になれば、ここは義務教育の総仕上げということになると思います。そういう中で、自分が住む町のことをし

っかり考える、全体的なことですね。地域でそれぞれ地域の良さを持ち寄って、自分が住む町全体の事を考える。さらには、日本のこととか世界のことというところに発展していくということになっていくのかなということでございます。こういう流れをしっかりとつくっていくということが、非常に大事なことかなというところでございます。

次のページが、3ページ目になります。これは、中学校の生徒数の推移を示したものでございます。平成30年度から平成42年度まで、2030年度までの推計になってございます。ここに、入学率と書いてございますけれども、100%というのが現在小学校から100%中学校に入った場合になります。現在の小学生から中学生に100%入った場合の推計と、その下の91%と書いてありますけれども、例えば黎明中学校とか、私立の中学校、そういうところに入学する子供たちもいるというところで、その数値を見ていきますと、大体1割くらいがほかの学校に通っているというところがございます。ここで91%としておりますけれども、この入学率であるという推計になるというところを表して、2つの推計を入れているということでございます。ちなみに、平成30年度につきましては、これは実数でございます。推計ではなく、平成30年度につきましては実数ということになります。そこから推計という形で、これは平成30年9月1日現在の住民基本台帳をベースに考えたものということでございます。グラフを見ていくと、今年までは小牛田中学校が一番多いというところがございますが、来年度から不動堂中学校が逆転いたしまして、不動堂中学校につきましてはこの推計でいきますとほぼ横ばいというか維持していける、キープしていけるというような形になってございます。ただ、小牛田中学校、南郷中学校につきましては、多少のばらつきはございますけれども、減少していく傾向にあるというところがございます。こういう中で、今後の中学校をどうしていくのだというところで進んできているというところがございます。

続きまして、4ページになります。

学校再編に関する経費及び新しい中学校の建設予定地の選定について（概略）ということで、概略的な部分をまとめたもので、お示ししております。

まず、学校再編に関する経費ということで、中学校ではなく最初は全体的な話から始まっておりますので、そこからいきますと、平成26年3月に美里町学校教育環境審議会から答申を受けて、その後教育委員会で本格的に協議を進めて、学校教育のあり方については、最初に、幼稚園、小学校、中学校の保護者へのアンケートを実施。その後に住民との意見交換を行いました。その後に、平成27年12月に美里町学校教育環境整備方針を定めまして、パブリックコメントを実施した上で、平成28年6月には美里町学校再編ビジョンを策定したということござい

ます。これを受けて、平成28年7月に議会全員協議会、あとは行政区長会で説明を行いまして、住民説明会を開催しました。そのところ、学校再編はある程度理解されましたが、小学校の再編には強い反対の意思が示されました。教育委員会では、地域とのつながりが深い小学校は現状を維持して、中学校の再編を進めるということとしたというところでございます。その後、中学校の再編に関してPTA、中学生、学校評議員などと意見交換会、あとは幼稚園、小学校、中学校の授業参観時に保護者との意見交換、さらには無記名アンケートを実施して幅広く住民の意見をお聞きしているというところでございます。平成29年度につきましては、中学校再編に住民の理解が得られたのではないかとこの考えから、中学校について美里町学校再編ビジョンに基づいて、現在の3校を1校に再編するという方向を確認していると。平成29年6月には、中学校の再編に関しまして総合教育会議で協議し、議会の全員協議会で説明して、保護者及び住民との意見交換会を行いました。そして、その後にパブリックコメントを実施して美里町中学校再編整備基本構想を策定してございます。今年度に入りまして、平成30年度でございますけれども、中学校建設用地の適地選定等業務というものを、国際航業株式会社に委託しまして作業を進めて、さらに7月には学校教育環境整備室を設置している。そして、新しい中学校の建設用地の選定、跡地の利活用について町長部局と調整するための新中学校建設調整委員会を設置していると、そういう流れで来ているというところでございます。教育委員会では、新しい中学校の建設用地を選定するために、平成30年9月12日の教育委員会臨時会から、平成30年11月12日の教育委員会臨時会まで6回の会議を開催いたしまして、建設用地を駅東地区ということで決定しているところでございます。

続きまして、その中身でございます。新しい中学校の建設用地の選定ということで、国際航業から示された1次選定案、これは駅東地区と駅西地区、この2つの候補地でございます。選定方法は、評価項目6項目を定め、それぞれの項目について5点法を中心に評価を行ったものでございます。このことについて、教育委員会から建設事業費あとは開校時期が示されていないと、検討する必要があるということで、国際航業に検討するように依頼しました。事業費と開校時期について教育委員会が考えていたのは、校地面積が6ヘクタールということでございまして、その中学校を想定して検討すると教育委員会で見積もっていた総事業費39億円をはるかに上回る76億円という事業費が示されました。最大規模で算出すると76億円というような金額が示されました。開校時期につきましては、既存の中学校の場所に建設する場合につきましては平成34年4月に開校ができる。駅東地区、駅西地区に建設する場合、新しく造成する場合につきましては、平成35年4月というところが示されたというところでございます。事業費に

ついて、教育委員会が見積もっていた総事業費をはるかに上回るため、規模を含めて見直し案を作成するよう依頼をしたということでございます。

続きまして、5ページに入りますが、見直し案が示されましたが、その内容につきましては校地面積を縮小しまして4.2ヘクタール、事業費につきましては約65億円と、そういう事業費が示されました。教育委員会では、この金額でも総事業費が非常に大きいため、新しい中学校の教育環境に影響を及ぼさない程度の規模、施設整備内容で再度見直し案を作成するように国際航業に依頼をしました。その際に、仮に給食棟及び武道場について、給食棟は町全体の学校給食のあり方を検討した上で整備することとし、武道場については既存施設及び体育館を活用することとした場合の事業費の算出を依頼しました。この2つを除いた部分を依頼したということでございます。国際航業から、校地面積が3.6ヘクタール、そして事業費については約48億円というような事業費が示された、検討の結果ですね。現時点では、なかなかこれを、詳細設計をしている段階でもないの、これがある程度出せる事業費の限界だということなところが、話をされているというところでございます。その後、教育委員会としては、新しい中学校建設に当たりまして給食棟及び武道場の整備が必要であるという考えから、これを含めた事業費である約55億円を事業費の基本として、建設予定地の選定を進めることとしました。これが第一段階でやったことということでございます。

それで、予定地の選定に入っていくわけですが、予定地の選定を行うに当たっては、何に重点を置くかが非常に重要であるため、教育委員会では将来のまちづくりも踏まえて、生徒によりよい環境を提供することを主眼に置き、建設予定地を選定することといたしました。教育委員会では、現在の小学校、中学校、幼稚園は各地域のほぼ中心に配置されていることを考慮して、新しい中学校の建設場所は町の中心付近が望ましいということになりました。国土調査の人口重心を考慮すると、候補地は不動堂中学校、駅東地区、駅西地区の3つになるという考えでございます。次に、教育委員会ではできるだけ広い校地で生徒が生き生きと学校生活を送ることができる環境が望ましいということで考えました。不動堂中学校につきましては、3候補地のうちで人口重心に最も近い位置ということでございますが、校地に高低差があり、校地面積が狭い上、校地が民地及び道路で分断されているということもありまして、さらに校地を追加するための買収を行っても生徒及び教職員にとって適切な環境を確保するということは困難ではないかということで判断いたしまして、駅東地区、駅西地区という候補地としました。さらに、町全体の発展、町の一体感の醸成、通学の負担軽減等を考慮して、教育委員会として新しい中学校の建設予定地を駅東地区に決定したというのが概略の流れということでございます。

続きまして、6ページは、これまでのそういう流れを整理したもの、流れを示したものであるということで、今お話ししたような部分が、まとめられているというものでございます。

続きまして、7ページ目につきましては、これは建設予定地の選定の検討に当たってということでお示ししているもので、何の条件に重点を置くかで結果が変わるというようなところを説明したものであるということでございます。例えば、従来の学校配置の尊重ということを意識すれば、人口重心に一番近い不動堂中学校という考え方もあるでしょう。ただ、その要素だけではなく、さまざまな条件を考えていくと、何に重点を置くかで変わってくる。例えば、あとはもう一つが財政負担の考慮ということで、ある程度建設費用の抑制、跡地の最小化ということを考えていくということでありまして、既存の中学校の位置が望ましいという考え方もございます。そういう考え方でありまして、例えば建設事業費が一番安いのが南郷中学校でございます。最初のインシャルコストを考えますと、南郷中学校という選択もある。ただ、これにつきましても、それぞれのいろいろな条件を考えていくとどれになるのだという、優先順位によって変わってくるというようなものを示したものであるということでございます。

その次のページ、8ページでございますけれども、これは選定例ということで、これもお示ししているものでございますけれども、前提条件としまして5つの候補地から建設予定地を選定すると。既存の中学校の位置と、教育委員会として出している候補地、あとはパブリックコメントですね、構想のパブリックコメントで出てきた住民からの意見、そういうものも入れている5つの候補地ということでございます。それで、前提条件といたしましては、周辺環境というか、通学の安全・安心な環境、周辺環境ですね、あとは防犯・防災体制の充実と、こういうものがどこに建設するということになっても関係機関としっかりと連携して、ハード・ソフトともに確保する、対応していくということが必要であろうということでございます。そういう中で、先ほどお話ししましたが、一番最初には従来の学校の配置と、それを尊重いたしまして3つの候補地。不動堂、駅東、駅西。さらに望ましい校地の確保というところで、駅東と駅西に絞って、最後は町の一体感形成ですとか、施設配置のバランス、美里町が平成18年1月に合併してから12年以上経過している、そういう観点も含めまして、町全体の発展とか利便性に配慮した場所に中学校を建設することが望ましいのではないかとというようなところもございまして、例えばこういう形で駅東というような例としてお示ししているところでございます。こういうところを参考に委員の皆様を選定していただいたところでございます。

続きまして、9ページでございますけれども、これは中学校再編におけるハードとソフト面の現状と課題及び対策ということで整理したものでございます。

まず、ハード面ということになりますと、現状が少子化による生徒数の減少、あとは学校施設の劣化の進行。これに対しまして課題が、再編方法をどうするか、再編場所はどこだと。あとは教育環境を充実するためにどうするか。そういうことを考えていきますと、対策といたしましては3校を1校に再編する、場所は駅東地区。校舎等の新築により環境改善、充実を図っていくというところでございます。ソフト面につきましては、現状が基礎学力の向上、生きる力の育成、あとは郷土に誇りを持つ人材の育成。課題につきましては、少人数の学級編成をどうするか、人数をどうするか。あとは職員体制、あとは地域との連携。対策といたしましては、30人未満学級の実施、導入と。あとは少人数指導の導入。あとは多様な地域人材の活用をしっかりと考えていく。こういうことをしっかりとやることによって、効率的、効果的な学習環境の整備につなげていくというようなものを整理しました。ハード面、ソフト面という整理でございます。

続きまして、10ページでございますけれども、これは駅東地区の事業費、概算でございますけれども、事業費ということでおつけしてございます。

まず、一番上に解体とございまして、それぞれの中学校が載ってございますけれども、金額は入れてございません。これにつきましては、まだ跡地の利活用というところを協議していないというところもございますので、それに従って活用していくものも出てくるであろうと。そういう流れで、ここの部分についてはしっかりと進めていくというようになると思います。

その下に、土地取得、造成、これが9億円8,000万円。あと建設経費ですね、建設事業費、これが40億3万円。それで、測量調査設計等というところでこれは4億9,400万円。合計で55億円400万円というようところでございます。

欄外に、3つパーセンテージを入れておりますけれども、補助金といたしましては教育関係の補助金を使った場合18.97%、起債につきましては66.95%、一般財源につきましては14.8%ということで見込んでいるというようところでございます。

続きまして、11ページでございます。

11ページにつきましては、既存の中学校に学校を建設した場合の工程表でございます。

これを見ますと、開校が、既存の中学校の位置に建てた場合につきましては平成34年の4月と。これまで教育委員会で目標としてきた年次につきましては、平成33年の4月ということで、1年間ちょっとずれるような形になると。

その下というか、12ページ目が駅東地区、駅西地区に建てた場合ということで、新しく造成

して建てた場合につきましては、各種許認可手続、造成の関係というものがございますので、それらを加味すると平成35年の4月ということで、さらに1年延びていくというようなところでございます。

その次、13ページということになります。

これは、これまでの経緯とスケジュールということで、それを一覧で整理したものでございます。今日、先ほどまで御説明させていただいた流れが書いてございます。それで、平成30年度、H30のところを見ていただいて、平成30年の11月から12月と下の部分にございますけれども、本日、総合教育会議を開催させていただいて、調整をさせていただいて、その後ですね、調整が整えば議会全員協議会で説明をするという流れです。さらに、その説明が終われば、年明け、平成31年の1月から2月ごろですね、保護者、住民との意見交換会をというような予定を考えているところでございます。

その次に、新中学校の建設適地選定に係る資料ということで、国際航業からそれぞれの候補地の項目がございまして、それぞれ現状と評価をしてあるもの、それが6ページまで。6ページの裏の7ページ目にケース別のそれぞれの候補地について、ケース別の事業費が載っております。7ページでございます。ケースAというのは、これは仮に給食棟と武道場を除いた場合、ケースBというのが給食棟と武道場を入れた場合ということで、2つのケースで総事業費を表したものでございます。また、ここにある配置図ですが、これはこういう形でやるというものではなく、模式図的なものでございまして、仮におさめた場合という形で考えていただければと思います。

その次ですね、1次選定資料ということで、9ページ目に人口重心からの距離ということで書いてございます。これは、平成27年の国勢調査の結果です。人口重心ということで不動堂中学校の北側、このプラス印が美里町の重心というところでございます。ここから各候補地までの距離というものを示した地図を添付したものでございます。

続きまして、10ページ目として、2次選定資料ということで、3つの候補地ですね、不動堂中学校、駅東、駅西というところで、それを抽出してそれぞれの敷地状況、それぞれの評価、コンサルの視点から、国際航業の視点で整理をしたものでございます。

最後、12ページになりますけれども、これは、主要道路の交通量というものを示したものでございます。ここに、例えばQ、40910と、これは地点の番号でございまして、その下に数値が入っていると思いますけれども、その下の数値がその箇所の交通量というようところでございます。それで、その交通量も加味しながらということで、その資料をおつけしていま

す。これは、選定する際の参考資料ということで捉えていただければと思っております。

続きまして、美里町の教育関係計画ということで、表紙の差しかえをさせていただいたものです。まず計画の関係を表したものであるということでございまして、まず一番上に総合計画・総合戦略と、これがまちづくりの基本指針ということで計画がございまして、その下に、この間審議していただいた教育振興基本計画ですね、これがございまして。さらに、毎年教育委員会で作成している美里町の教育というものがございまして。それで、長いほうの矢印のほうにいきますと、学校教育環境整備方針というものです、立ててございまして、これに基づいて学校再編ビジョン、あとは具体化に向けてというところと、最終的には基本構想というところに来ております。こういう流れでまず整理をさせていただいて、あとは教育関連計画の項目内容比較ということで、1枚めくっていただいてA3判のところは15項目ほど項目を出してございまして、どの計画に載っていて、現状と課題が何で、対策がどうだというものを一覧に取りまとめたものであるということで、こういうものを使って今後の中学校、学校教育について何をやっていくべきかと、特色あるものをどうやってつくっていくかと、そういうような部分を精査しながらしっかりと新中学校のビジョンというか、こういう中学校にするというところをしっかりと描いていく必要があるのだと。明確化するということですか、要素はしっかりと載っておりますので、明確化していくというところがあると。その下は、小さい字で大変恐縮なのですけれども、それぞれの計画をギュッとまとめたものということになってございまして。これを比較しながら、しっかりと内容を把握しながら、今後新中学校のソフト面というか、そういう部分に活かしていくと、繋げていくというところで考えているところでございまして。

私から資料の説明をさせていただきましたけれども、以上でございまして。

○総務課長（佐々木義則） ありがとうございます。

それでは、これより資料に基づきまして、意見交換を進めたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

説明に対しまして御意見、御質問等ありましたらよろしくお願いいたします。

○町長（相澤清一） 私から。

ここまで本当に、教育委員会の関係している皆さんには大変御苦労さまでございました。非常に、今の現状、将来の展望なりがしっかりと謳われているのかなと思っております。また、今日は適地選定の関係での協議ということでございましてけれども、私もいろいろなところを見て、また今までの計画から聞いて、このような方向性が一番だろうと思っております。やはり、我々が見るときには細かい部分を見るのも必要ですけれども、やはり大きな視点で全体像を見

るというのも私は必要だと思っています。例えば小牛田中学校を見るのではなく、不動堂中学校を見るのではなく、ここに学校が建設されたときに子供たちがどのように動くのか、どのような学校生活を送れるのか、そういう大きな視点に立ったビジョンというのは当然持つべきだと思うし、持たなければいけない。ただ利害関係だけでどうのこうのという話は、私はふさわしくないのかなと思います。例えば駅東に学校が建った場合、子供たちがどのような部活動をして、どのようにして南郷地域から集まって来て、どうやって帰っていくのか、父兄の皆さんはどのような形で学校に寄り添っていくようなことを子供たちと一緒にできるのか。また、地域のかかわりもどのように持てるのか、そういうことが非常に私は大事だと思いますので、そういう観点から考えればやはり教育委員さん皆さんいろいろな角度、大所高所から考えていただいたので、その方向性は正しいのだろうと思っています。PTAの皆さんもおぼろげながら駅東ということが教育委員会で報告を出していますので、そういう意味でPTAの皆さんも理解をしているし、地域の方々もある程度理解をいただいている。そういう面で見れば非常に、いいのかなと思っています。ただ、問題は、これから行政側としての立場を考えれば、やはり当初39億円、最大が40億円と教育委員会の中で説明をして歩いて、大きな金額ですけれども、こういう形で進めたい。町の財政なり執行部と話をしながら、我々もこうだったら何とか学校建設に向かっていけるのかなと、財政計画なり、健全化計画なんかをしっかりと入れながらそこまで来たわけであります。ですから、説明通りで行ければ良かったのですが、ただ、思ったよりも金額が倍額近くになっている。それでは到底なかなか計画が組めないですから、いろいろな形、角度から削減をいただき、少し金額を検討してもらってここまで来た。現時点では48億円が最大値ということで、私たち学校を建設する立場として教育委員会側と財政面でもリンクして考えなければ、私は本来の形にならないと思います。教育委員会の皆さんはいろいろな立場から、子供たちを重視してきちんとした形で御提言をいただいたということは当然いいんですけれども、これからは私たちの立場が変わってくるとやはり財政的なこと、財政健全化計画、財政計画にリンクをさせながら、将来の町のサービスも考えなければならない。全体的な形で物事を考えていかないと、当然サービスを落として学校だけでいいという話にはなりませんので、これからそのような作業が入ってくるのだなと思っています。また、非常に金額が大きいもので、逆にいろいろな補助の方法がないのか、また民間を活用したPFI方式、PPP方式、そういうものがないのか、いろいろな立場から考えていきたい。今、現時点でこの方向性はしっかりと、選定の場所については何ら問題もないし、私も共通の認識でございますので、そういう面ではいいのかなと。ただ、問題はやはり財政的なものが、まだまだそ

ういう面ではなかなか方向性が定められないので、今後しっかりとその辺を精査しながら、この総合教育会議の中で何回も何回も議論をしながら、どこまでが許容範囲でどこまでこれは譲れない部分って当然あると思いますので、そこらをしっかりと形をつくっていけばいいのかなと。そういうふうには私は今説明を聞いて、本当に室長の懇切丁寧な説明を聞きながら、方向性、課題も見えてきたのかなと思いますので、これから何回も会議を開きながら、その距離を埋めていくというか、財政も努力しなきゃいけないです。なかなか来年度の予算を組むのに、非常に今苦労しているところで、そういう意味で長期的に考えれば難しいところがあるから、そこらをみんなで、町全体として考えなければならないのかなと、率直にそういう思いですので、御理解をいただきたいと思っております。

○総務課長（佐々木義則） それでは、これまで大変苦労しながら検討してここまで詰めてきたというところで、教育委員さん方から一言ずつ、この再編を今まで進めてきた経過について、お話等がありましたらお願いできればと思いますが。

○町長（相澤清一） その前に、もう一点だけ聞きたいのだが、さっき室長には説明をいただいたが浸水深の問題、ハザードマップの関係で、住民のみんなは例えば駅東というと「もう水は上がるものだ」という意識、認識です。考えてみると、データを見ると不動堂中学校とほぼ同じ、そういう浸水深というのは、その辺が確実に、そのようなデータをハザードマップから拾ってくるのだろうけれども、住民はやっぱりあそこは低いという思いがあるから、必ず出来川が決壊する。決壊したときは学校が一番先に水をかぶると、そういう思いなのね。そういうのはしっかりデータに基づいて、絶対かぶらないということはないだろうけれども、そういう面でこのデータどおりのしっかりとした浸水深なのか、その辺が知りたい。

○教育総務課学校教育環境整備室長（佐藤功太郎） まず、浸水深の関係につきましては、このA3判の国際航業でつくっていただいた選定に係る資料の、浸水深につきましては⑤災害リスクというところに書いてございまして、小牛田中学校ですと0.5メートルと、一番高いと、候補地の中ではですね。不動堂中学校につきましては、校舎の位置は高いのですが、ハザードマップの浸水深でいきますと2メートルから5メートルということで、一番浸水深が大きい。それで、そのほかの南郷中学校と、あと駅東、駅西につきましては大体同じくらいで1メートルから2メートルという浸水深だと。それで、先ほど町長がおっしゃった部分につきましては、雨が降ると田んぼの水がいつもなかなかはけなくて、大分水が上がっているという状態になるときも当然ありまして、そういうのをみなさん見ているので、いやいやこれがもっと上がったら大変じゃないかと。あと、昔ですと一部ちょっと浸水というか、住宅に浸水していたという

ところもございますので、そういうところを心配なさっているのかなと思いますが、これにつきましては防災管財課としっかりと、ハザードマップからとっておりますが、確認をして、また新しいハザードマップを作成するというのもあるので、しっかりと調整しながら、連携して進めてまいりたいと思います。

○町長（相澤清一）　じゃあ、不動堂中学校よりは浸水深は低いという解釈でいいですね。

○教育総務課学校教育環境整備室長（佐藤功太郎）　ハザードマップの浸水深でいきますと、そういう数字が出ている。ただ、校舎につきましては当然高いので。（「校舎高いからね」の声あり）ただ、周りにつきましては大分浸水するエリアというところになってございます。

○町長（相澤清一）　どうしても、素人目で見ると、不動堂中学校は高いっていう思いだよ、駅東と比べるとどう考えても違うだろうって必ずそういう話になるから、データの的にきちんとした形で示されればいいのかと、そのように思っています。

○総務課長（佐々木義則）　それでは、これまでの選定経過の御意見等も含めながら、各教育委員さんのほうからも御意見いただければと思います。後藤委員さん、お願いします。

○教育長職務代理者（後藤眞琴）　僕は、町長が全体から教育委員会では見てきたと、それで方向性は間違っていないと、そういう意見、ただ問題は財政のことだと、これは教育委員会でも教育オンリーでなくて財政のことも考えながら、室長が説明しましたように少しずつ自分たちが考えてきた中学校をつくるために最低限どこまで減らせるかという形で、業者の方には頼んで考えてもらったということ。それで、これから、町長もおっしゃいましたように、この総合教育会議で何度も検討しながら、進めていく。何のための検討かというのと、これは新しい中学校、今の3つを1つにして新しい中学校を建てる、そのために話し合うのだと、そのところを教育委員会と町長を中心とする町で、問題になっている財政をどこまで、最初に教育委員会で39億円と、これここでお詫びしなきゃならないんですけども、あの見積もり、教育委員会はかなり甘く見積もったという点は本当にお詫びしなきゃならないんですけども、その39億円を町長部局の財政のほうでどこまで拡大できるのか、それを考えていただきたいなど。教育委員会では新しい中学校、自分たちの考えている中学校を、どこまで建設費が縮められるのか、その辺のところをこれから総合教育会議でお話をさせていただければありがたいと思っています。

○総務課長（佐々木義則）　それでは、成澤委員さんから。

○教育委員（成澤明子）　私たちは、建設とかそういう建物をつくるということに対しては全く素人です。本当にただ将来の美里町を元気にするような、美里町を担う子供たちを育てるための新しい中学校ということで話をしてきました。ここに来てお金が最初よりもどんどん高くな

ということがあるんですが、それでもやはり譲れないところは譲れないかなと思ったりしています。それから、新中学校のことだけを切り離して考えるのではなく、町全体の総合的なまちづくりととてもリンクしているのではないかと思います。今、選定したところは田んぼの中で、樹木も何もないところですけども、そうした中でどのような中学校をつくっていくかとなったときに、やはり町の姿勢みたいなものも関係してくるのではないかと思います。樹木があったり、あるいは、今後のこれからのコストパフォーマンスを考えると、ぎっちり建物を閉め切ってそこに空調をがんがん入れるということは、さけた方がよい。空調自体もどんどん劣化していきます。将来にわたってエネルギーに対するお金もかかっていくので、そこは初めに多少お金がかかっても気密性はそれほどでもなくて、けれども断熱はきちっとやるとか、あるいは伝統的な日本のつくり方の長いひさしのような考え方で、自然の陽光と折り合っていくようなことはできないかと思いました。それから、やはり地元の労働力といいますか、本当に素人で何もわからないのですけれども、こういう大きな建物を建てる時に地元の労働力、雇用というのを大切にしたらなおさらまちづくりに活気が出てくるのかなと思います。資材も地元の資材を使える物があったら使うとか、そんなことをすることが、大きなテーマからちょっと外れるかもしれませんが、何か頭の隅っこには入れておきたいなと思っているところです。以上です。

○総務課長（佐々木義則） ありがとうございます。留守委員さん。

○教育委員（留守広行） 教育委員をさせていただきまして、中学校の再編に携わることができました。その中で、新しく中学校を建てる候補地という選定の会議に臨ませていただく中で、自分なりに何点かポイントを自分勝手に定めまして会議に臨んでいたところでありました。でも、その自分なりですから足りない部分がいっぱいありました。その都度、事務局のみなさんから資料をいただき、初めてこういう点も加味しなきゃならない、そんな思いで会議に参加させていただきました。そういう総合的にみなさんの御意見も耳にしながら駅東というところに落ちついたというところです。本当に、本日、総合教育会議に臨ませていただいて、この日を迎えられたことにほっとしているというのが今の心境であります。以上です。

○総務課長（佐々木義則） ありがとうございます。千葉委員さん、お願いします。

○教育委員（千葉菜穂美） 中学校建設に当たっての予算、当初よりも大分予算オーバーだとは思いますが、まず食べることは一番人間にとって大事なことだと思います。食で満たされると何でも活力になってできることだと思いますので、予算オーバーかもしれませんが給食棟をつくっていただいて、子供たちにおいしい給食を食べさせていただければと思います。あ

ともう一つ、武道場のほうも、柔道で全国大会に出た方もいらっしゃる、剣道部も東北大会とかとても活躍していますので、そちらのほうも、予算オーバーですが、ぜひ、不動堂にもありますが、剣道部と柔道部と別な武道場で練習できる環境をつくってもらえればと思いますので、ぜひその辺は削らないでいただければと思います。以上です。

○総務課長（佐々木義則） ありがとうございます。大友教育長、お願いします。

○教育長（大友義孝） 私も、2月から就任させていただきまして、きっかけは平成26年の学校教育環境整備の審議会の答申から始まっています。審議会を設置していただいたというのは、今まさに児童生徒数が減っているということ、それから教育環境はこれでいいのか、建物だけじゃなくて中身のこともあったわけですね、そして答申をいただいて今日に至るということがありますが、やはりこれは来年のこと、再来年のことも当然大事なのですが、20年後、30年後、それを見たときに一体どういうふうな環境が望ましいのか、目先の考え方ではだめだなということで、長期的な見方でここまで協議していただいたと思っております。そこで、あくまでも教育委員会では教育的な観点からまずスタートをしまして、そして財政の部分についてもやはりこれでは限界があるなということから、うちのほうで今設計していただいておりますコンサルさんのほうに何度も修正、限界値はどこかというところまで下げてきたわけでございます。決して財政の部分に触れないで、一点に教育的観点からこうだという形でここに落ちついたということではないので、それをもって限界値でやっどこまでこぎつけたのかなと思っております。そこで、今後の部分についてこれから触れていかなければならないと思っております。教育委員会で審議し、決定した部分については説明できるつもりですが、やはり町長が先ほど申されましたように、町として全体的な部分でそれを検討していかなければならないということでございますので、その説明の時期、説明といいますのは保護者のみなさんや住民のみなさん、そういったみなさんに対してどのような形でいつごろ説明をしていかなければならないのか、教育委員会だけの考え方からすれば来年の1月にでも説明会を開催し考え方を説明するということではできるのですけれども、その辺が今問題なのかなと思っております。やっどこまで、教育委員会としては先ほど御挨拶させていただいたときにお話し申し上げましたが、70回の委員会を開催して今日に至ったということでございます。新参者ではございますが、これまでの委員さん方の苦労も大変だったろうなと思っております。以上でございます。

○町長（相澤清一） 今までの委員さんの話を聞くと、十分その辺は理解しているし、今教育長がこれからどういう、今後のスケジュールに入っていくのだろうと思うけれども、やはりこのままで場所だけ決まったからということで、住民なりPTAなり議会には説明はできない。当

然それを裏づける予算、財政計画、そういうようなものがなければ、やはり議会では「何だ」と言われますので、そういう意味では時間がどのくらいかかるかわからないけれども、総務課長が前の企画財政課長だからその辺のシミュレーションは当然考えていると思うんだけど、そういう予算なりしっかりした財政計画をやはりつくらなければならないと。そのために、つくるために何かを削らなきゃいけないことも当然出てきますので、そういう意味で、大きな予算ですので、どこかを削ったり先延ばししたりしなきゃいけないと。当然、今、保育所整備を進めていますので、それは削られないとなると何を削るのかと、そういうようなことも当然一緒になって考えていかなければならないと思うので、少し、議会なり住民のみなさんなり、あしたもまちづくり会議の話し合いでもその辺も多分強行的に言われてくるのかなと思いますけれども、ただ、今の中で場所はしっかりと、お示しはできるけれども、なかなか建設の金額なりそういうことの細部にわたって説明はできない。今の段階はそういう段階だから、これからできるだけ早く、室長が中心となって、しっかりと形をつくっていきながら、今年中はなかなか難しいのかと思いますけれども、できるだけ早くみなさん、特にPTAの皆さんはいつまで、足止めしているのかなんてこの間も言われましたので、そういう意味でできるだけスピーディーにしっかりとした計画をつくらないといけないと思っています。40億円という最初の話、40億円で財政計画なり財政健全化計画つくっていますので、それを抜本的に変えなきゃいけないということも事実でございますので、40億円が48億円、55億円、そこらのシミュレーションも当然しなきゃいけないので、非常に町としても頭の痛いところもありますけれども、しっかりと時間をかけて、スピーディーに、そして教育委員会と連携をとりながら今後つくっていく方向性を見出していきたいなど、そう思っておりますので、いろいろとこれからも御協力お願いを申し上げます。

○教育総務課学校教育環境整備室長（佐藤功太郎） それでは、よろしいでしょうか。

財政との調整の関係で現段階の状況なのですが、まず、建設候補地というか予定地が駅東ということで決まったことによって、まず事業費がまず一つ出てきたと。それで、先日企画財政課に行きまして、まずはこういうことで決まったお金はこれぐらいなんだと、そして教育関係の補助、起債を考えるとこういうような中身になるという話をしまして、そこで話をされたのが、まずはもっと細かい資料が欲しいと。例えば、この補助はどこのどういうものを使っているのか、文部科学省の何というメニューを使っているのかとかですね、起債はどのようなものを充てているのか、あとはその年度ごとの事業ですね、各年度にどれくらいかかってくるのかと、そういうものを詳細にやはり見てみないと、正確なシミュレーションができないと。私も財政

的な部分については素人というか詳しくないので、やはりもっともっと必要な資料があるという
ことで、それを今作成しております、これも国際航業と連携をとりまして、大体今日ぐら
いにその資料を、素案が上がってくるので、それを見て再度また財政と調整をしていくとい
うようなところになるのかなというところで、資料として必要なものをお出しして、そして早目
にそのシミュレーションができる状態をつくっていく必要があるのかなと。今も、重要な問題
ですので当初の予定よりもちょっと遅くなってきている。説明会についても10月ごろというお
話でしたけれども、それもちょっとずれこんでおりますけれども、やはり非常に大きな問題、
重要な問題ということでございますので、しっかりとシミュレーションをやっていかないと前
に進むことができないということで、財政のほうでも言うておりまして、あとはぱっとこれぐ
らいかかりますと出したときはやはり大きいなど、事業費的にはですね、そういうお話もあり
まして、あとは詳細に出してくれと、しっかりとシミュレーションしてからの話だということ
でございます。今のところは以上の状態でございます。

○教育長職務代理者（後藤眞琴） それ、いつぐらいまでにできるの。教育委員会では来年の1
月から2月に住民に説明できたらいいということで考えておりますよね。それぐらいに間に合
うのかどうか、ちょっとお聞かせください。

○教育総務課学校教育環境整備室長（佐藤功太郎） それでですね、まずは住民に説明する前に
議会の全員協議会を開いていただくと、そこでしっかりと説明してということになると思いま
す。それをまずいつ開催できるのか。例えば、議会前だともう時間的にはほぼないという状態
なので、まずは一番年内でも、どこまで開けるかということですかね、年内ですね、そこを
目標に組み立ててみたいなというところであります。何とか急いで、財政にも御迷惑はかけるの
ですが、何とかシミュレーションを早くして12月に全員協議会を開いていただくと。そうしな
ければ、それが12月を越えちゃいますとまたそれが1月、2月と、3月というふうにならな
いのか。ただ、先ほど町長がお話ししておりましたけれども、やはりしっかりと調整をし
なければならないというところもございますので、急ぎながらもしっかりと中身はやっていく
というところで、必ずいつまでできるというのはなかなか今のところは難しいんですが、早急
に、まず基礎資料をこちらで準備いたしまして、近日中にまず財政に出して、あとスケジュー
ルを確認しながらというところで進めたいなと思っております。

○町長（相澤清一） きょう、秘密会にさせていただいたというのは、やはりそのような数字がひ
とり歩きする傾向にあります。活性化施設も、本来私たちの町とすれば15億円、12、3億円で
とめたいという思いがありましたが、全体像が将来を考えれば30億円かかるから、30億円だ、

30億円だっていうことがひとり歩きして、もう本当に大騒ぎになって、なかなかそれを打ち消すのが大変だったという思いがあるから、そのうち消すことのないような形でしっかりとって、大きな影響が出ないように秘密会にさせていただきました。そのような形でもっとしっかりと説明ができる数字とといいますか、そういう計画をやはり我々はお互い共通認識を持って、町民やPTAの皆さんにお示しをする。それが私は大事だと、責任を持って、そういうことが最初に大事だろうと、私はそう思っています。きょうはそういう面で秘密会にさせていただきましたけれども、これからも大事な部分については、しっかりと最後に町民の皆さんやPTAの皆さんに説明ができるような、責任を持った進め方をしないといけないなど、そのように思っています。

○教育長職務代理者（後藤眞琴） 僕も、秘密会というのは、これ、やむを得ない事情があるときのみ秘密会にする、せざるを得ない、その理由をはっきりさせた上で秘密会にしないと、この秘密会がずっと続いています。これ、教育委員会も今秘密会でやっているのですけれども、それが今度ひとり歩きして、情報を住民に伏せておいてそれで勝手に決めていると、こういうふうにとられるとまたまずい面もありますので、秘密会にするときには本当に慎重にしなければなりません。

○町長（相澤清一） そうですね。その裏返しで、町民の皆さんでも関心のある人はその1こまだけをにとって「ああ、このように教育委員会では70億円で学校つくろうとしているんだ、俺たちが汗水流した税金をそれに全部とられるんだ」みたいな話をされると、将来のまちづくり、学校づくりが変わってきますので、そういう面で慎重にやらなければならないという思いで秘密会をしなければならないとき、またオープンにしなければならないとき、それは当然使い分けしながら、しっかりと責任を持ってしていく、それが大事だと思っています。

○総務課長（佐々木義則） 今後のスケジュールは。

○教育総務課学校教育環境整備室長（佐藤功太郎） それでですね、今お話しいただいて、ちょっと詰めなければならない部分があるので、大まかにはスケジュールをお出ししていますけれども。あと調整しなければならないと。

○総務課長（佐々木義則） 先ほど、町長からありましたけれども、私も今の財政計画をつくったというところがあるので、もしよければ私のほうからお話しさせていただくと、当然町の財政、今年間予算が大体100億円程度、大体一つの目安にして予算を動かしているわけですが、一般会計については、そのうち、いわゆる町のほうで一般財源といわれる町が自由に使えるお金の部分というのが大体そのうち70億円程度。それで、福祉なり教育なり全て含めたサ

ービスを行っているというところになります。今回、このように教育委員会で金額を示されて、この10ページの計算の例でいいますと、町の財政に大きく影響が出てくるのがこの起債、いわゆる地方債、借金の部分と、それから一般財源ですが、全体の事業に大きく影響が出ます。この起債の部分については借金ですので、その建設した当初は、年についてはそのお金を借りて建てるものですから、あとはそれを返済する返済計画がどうなのかというところを見直ししなきゃいけないというのが一つ、あとはこの問題は一般財源ですね。先ほど、1年間で全部やるわけではないので、この計画に基づいて一般財源というのがどの程度かかるのかというのが非常に問題になるところです。先ほど言いましたけれども70億円しかない一般財源、これはもう上限が決まっていますので、これをこの7億が単純にどこの年度にどの程度上乘せになるかで、住民の今まで提供しているサービスに結果的には影響が出てくるというところを、慎重に検討していかなければならないというところで、そういった意味では単純に学校の建設事業だけではなく、ほかのいろいろな公共サービス事業の今後の計画も含めて、見ていかなければならないという部分なものですから、慎重かつ早くというようなところですので、少し時間はいただくことになるという感じだと思います。

そのほか、御意見等ございませんでしょうか。

○教育総務課学校教育環境整備室長（佐藤功太郎） 済みません、確認というか。

それでは、今いろいろお話しいただきまして、いずれ財政の部分の調整を早急にとということですので、この会議を受けまして私を中心に財政のほうとしっかりと慎重かつスピーディーに進めてまいるといふことでよろしいでしょうか。あとは、情報につきましては逐次お伝えしながらということにしたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

○総務課長（佐々木義則） それでは、今お話あったとおり、今後早急かつ慎重に財政計画等の調整を図りながら、教育委員会それから町と調整を図って、ある程度その辺の方向性が固まり次第、情報提供もしながら、次回の総合教育会議でさらに確認していくというような形で今後進めていきたいと思っておりますけれども、それでよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）ありがとうございます。

それでは、本日の協議事項については以上でございます。

日程第4 その他

○総務課長（佐々木義則） そのほか何か御意見等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

それでは、以上をもちまして協議事項、その他については終了とさせていただきます。

日程第5 閉 会

○総務課長（佐々木義則） 次回の総合教育会議の開催日程等につきましては、教育委員の皆様方へは、事前に教育委員会事務局を通じまして調整させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、平成30年度第2回美里町総合教育会議の一切を終了させていただきます。

どうもきょうは大変お疲れさまでございました。

午後3時23分 閉会

上記、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名いたします。

平成 年 月 日
